

1 委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名:株式会社アーク教育システム

T/A アルファ国際学院

1 事業の趣旨・目的

ボランティア日本語教師及び、ボランティア日本語教師助手の養成

- 地域ボランティア活動の一環として、外国人生活者を対象に実施される日本語教育に一般の方が積極的に参加できるよう、実践的な指導を中心に基礎文型の解説を行い、日本語教育への理解を深め、実践的なボランティア日本語教師を養成する。
- 外国人生活者の生活環境や滞在目的などの理解を深め、日本語教育を通じて、健全な国際交流活動が行える人材を養成する。

2 企画委員会の開催について

※別紙企画会議議事録参照

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
09年1月 15日 13:30 から15:30	アルファ 国際学院 虎ノ門校	梶浦 琢真 長谷川 純 渡辺 伸子 佐藤 義朗 日名子 暁	1 企画委員会の委員選定 理由と各委員(出席者)の紹 介 2 本事業講師選定につい て	本講座の趣旨説明 ● 本講座内容・担当講 師・日程等の確認 ● 現在の日本国内に おける日本語教育事情 の説明 ● 受講者の本講座修 了後の進路・サポート等 の確認
09年1月 16日 18:00 から 21:00	アルファ 国際学院 虎ノ門校	梶浦 琢真 長谷川 純 渡辺 伸子 佐藤 義朗 日名子 暁	1 ボランティア日本語教師 の位置づけ 2 本講座の受講希望者に ついて	■ ボランティア教師とプ ロ教師の違いに関する 説明 ■ 受講希望者の年齢や 性別などによる傾向の 確認と学習意欲などの 説明

09年1月 21日 14:00 から 17:00	アルファ 国際学院 虎ノ門校	梶浦 琢真 長谷川 純 渡辺 伸子 佐藤 義朗 大友 正弘	1 本講座のカリキュラムについて 2 ボランティア日本語クラスの現状	<ul style="list-style-type: none"> ■ 港区国際交流協会における日本語クラスについて ■ 外国人生活者にとってコミュニティとは ■ 港区国際交流協会の今後の活動について
09年1月 30日 13:00から 17:00	アルファ 国際学院 虎ノ門校	梶浦 琢真 長谷川 純 渡辺 伸子 佐藤 義朗 日名子 暁	1 本講座のカリキュラムについて	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロ教師養成とボランティア教師養成の違い ■ 研修修了時の目標
09年2月 3日 10:00から 12:30	アルファ 国際学院 虎ノ門校	梶浦 琢真 渡辺 伸子 佐藤 義朗 日名子 暁 大友 正弘	1 ボランティア教師の現状と改善すべき点	<ul style="list-style-type: none"> ■ ボランティア教師のレベルとこれまでの研修方法 ■ 外国人学習者の学習目的とこれまでの対応

【写真】 企画会議風景



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名:文化庁委託ボランティア日本語教師養成無料講座

(2) 研修の目標:

■日本語教育現場への理解と基本的な日本語文法の知識と実践的な日本語教育能力の習得

(3) 受講者の総数 32人

(4) 開催時間数(回数) 60時間 (15回)

(5) 参加対象者の要件

(6) 受講者の募集方法

■新聞

朝日新聞スクールスクウェア

■雑誌

アルク『日本語教師になろう』／月間日本語

イカロス出版『日本語教師になるための学校ガイド2009』

(7) 研修会場

ア 講義:アルファ国際学院紀尾井校

イ 実習:アルファ国際学院紀尾井校

※東京都千代田区紀尾井町3-32 紀尾井アートギャラリー四階

(8) 使用した教材・リソース

■ Tokyo Japanese I (出版:アルファ国際学院)

■ 日本語中級読解(アルク)

■ 東京都からのお知らせ

◎教室内配布物

■ 50音図《縦書き》教科書は、横書きの為。

■ 平仮名、カタカナカード

■ フラッシュカード, 絵カード

■ 教案モデル、

■ ○×の合図棒

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
2月5日 10:30～ 12:30	■ 日本語を教えるとは	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	30人
2月5日 13:30～ 15:30	■ 現在の日本語教育事情	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	30人
2月10日 10:30～ 12:30	■ 文法の基礎1 文法の復習	アルファ国際学院 教師養成科主任 沖濱麻美子	31人
2月10日 13:30～ 15:30	■ ボランティアのあり方 ボランティア活動の内容と心得	川崎市幸市民館 日本語学級ボランティア 岸本康子	31人
2月12日 10:30～ 12:30	■ 文法の基礎2 文法の復習	アルファ国際学院 教師養成科主任 沖濱麻美子	29人

2月12日 13:30～ 15:30	■ 外国人生活事情 外国人労働者の流れ	早稲田大学非常勤講師 作家 日名子暁	29人
2月17日 10:30～ 12:30	■ 文型解説 TJ1 の1課から5課 ※Tokyo Japanese1=TJ1	アルファ国際学院 教師養成科主任 清川えり子	28人
2月17日 13:30～ 15:30	■ 文型解説 TJ1 の1課から5課 ※Tokyo Japanese1=TJ1	アルファ国際学院 日本語科主任 清川えり子	28人
2月19日 10:30～ 12:30	■ 実践指導 直説法と間接法 直説法の教授法	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	29人
2月19日 13:30～ 15:30	■ 実践指導 授業の組み立てと流 れ	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	29人
2月24日 10:30～ 12:30	■ 文型解説 TJ1 の6課から 10 課	アルファ国際学院 日本語科主任 清川えり子	25人
2月24日 13:30～ 15:30	■ 文型解説 TJ1 の6課から 10 課	アルファ国際学院 教師養成科主任 清川えり子	25人
2月26日 10:30～ 12:30	■ 実践指導 教案の作り方 国立フィリピン大学日 本語教育の経験談	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	26人
2月26日 13:30～ 15:30	■ 実践指導 受講生の考えた導入 の発表 敬語を考える	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	26人
3月5日 10:30～ 12:30	■ 実践指導 グループ発表 動詞の形	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	25人
3月5日 13:30～ 15:30	■ 実践指導 様態の「～そうです」 伝聞の「～そうです」	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	25人

3月10日 10:30～ 12:30	■ 文型解説 TJ1 の 11 課から 16 課	アルファ国際学院 日本語科主任 清川えり子	23人
3月10日 13:30～ 15:30	■ 文型解説 TJ1 の 11 課から 16 課	アルファ国際学院 日本語科主任 清川えり子	23人
3月12日 10:30～ 12:30	■ 実践指導 個人発表 「あげます」 「もらいます」 の教え方	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	23人
3月12日 13:30～ 15:30	■ 実践指導 て形 順次動作の教 え方 尊敬語・謙譲語	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	23人
3月17日 10:30～ 12:30	■ 文型解説 TJ1 の 17 課から 21 課	アルファ国際学院 日本語科主任 清川えり子	23人
3月17日 13:30～ 15:30	■ 文型解説 TJ1 の 17 課から 21 課	アルファ国際学院 日本語科主任 清川えり子	23人
3月19日 10:30～ 12:30	■ 実践指導 個人発表	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	25人
3月19日 13:30～ 15:30	■ 実践指導 個人発表	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	25人
3月24日 10:30～ 12:30	■ 文型解説 誤用文訂正	アルファ国際学院 日本語科主任 清川えり子	25人
3月24日 13:30～ 15:30	■ 文型解説 TJ1 の 22 課から 25 課	アルファ国際学院 日本語科主任 清川えり子	25人
3月26日 10:30～ 12:30	■ 実践指導 中上級者とは 精読のやり方	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	25人

3月26日 13:30～ 15:30	■実践指導 速読 スキミング スキヤニング	アルファ国際学院 校長 渡辺伸子	25人
3月31日 10:30～ 12:30	■ イラストの描き方 表情の書き方 猫と犬の書き方の違 いなど	イラストレーター わたせせいぞう	25人
3月31日 13:30～ 15:30	■ 座談会 外国人を交えた交流 パーティー 研修終了式	全講師	25人

【写真】



実践指導(模擬授業の発表)



教授法講義(渡辺校長)



わたせせいぞう氏 イラストの描き方



研修終了式

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- アンケートを研修開始日と修了日に実施 ※別紙アンケート1 & 2参照

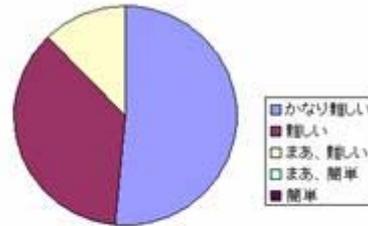
【研修前のアンケート(1)】

アンケート回答者数:34人

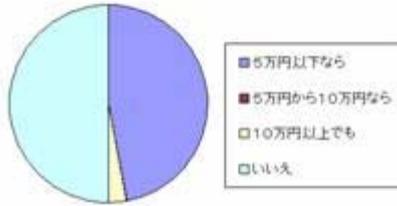
なぜ、プロではなくボランティア日本語教師を目指すのか？



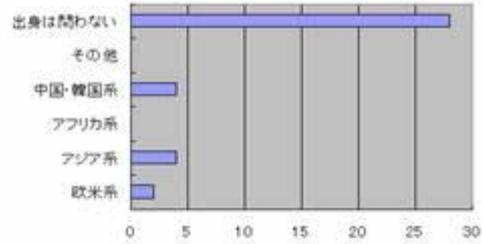
日本語を教えるのは難しいと思うか？



もし、本講座が有料でも参加したか？

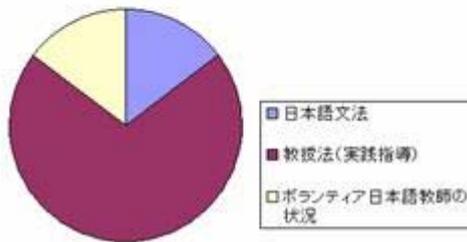


どこ出身の外国人に日本語を教えたいか？

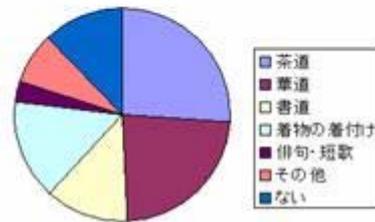


七

本講座で一番学びたいのは？



日本文化に関する資格を持つ、または習い事をしたことはあるか？



※複数回答可

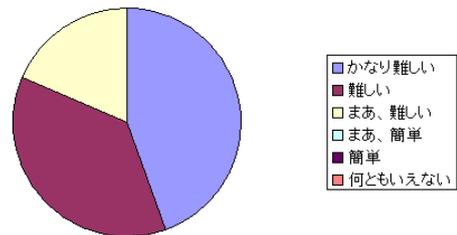
【研修後のアンケート(2)】

アンケート回答者数:27人

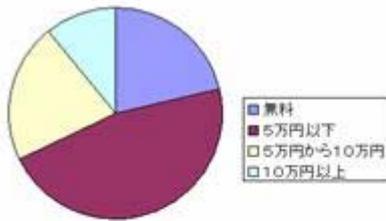
ボランティア日本語教師として活動したいか？



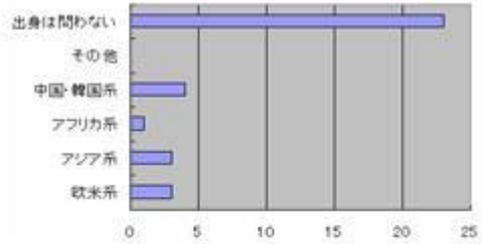
日本語を教えるのは難しいと思うか？



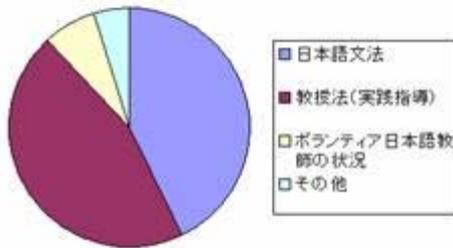
もし、本講座が有料ならどの程度が妥当か？



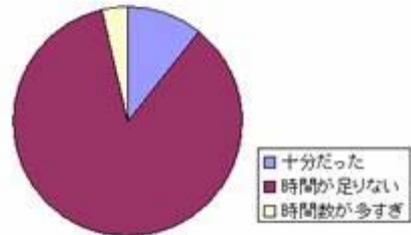
どこ出身の外国人に日本語を教えたいか？



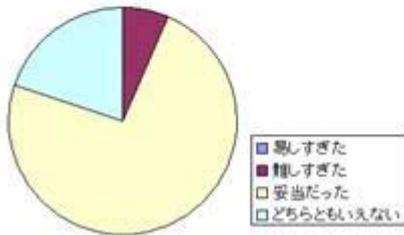
本講座で何を一番学んだか？



ボランティア教師養成講座として、本講座は十分な時間をかけていたと思うか？



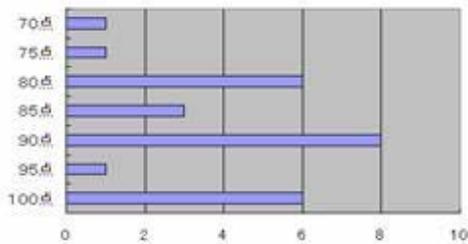
ボランティア教師養成に本講座の内容は適していたか？



日本語教育について今後も勉強したいか？



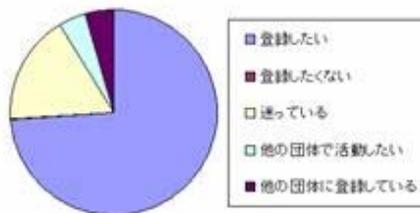
本講座内容に点数をつけるなら？



本講座に続きがあったら受講したいか？



ボランティア日本語教師として当学院に登録したいか？



実施主体からの研修内容結果評価

- 出席率 80%以上の受講生には修了書を発行した。
- 全受講生数32名中28名が修了した。約87.5%
- ※ 上記修了者以外に2名の受講者に対し30時間の修了書を発行した。
- 各講義の平均出席者数: 25名。約78%
- 受講者の学習意欲が高く、積極的に質問するなど活気ある講義を続けることが出来た。

研修内容

- 初期: 日本語を日本語だけで教えるとは? 直接法とは?
実際に、直接法で初級授業の模擬授業。大事な文型を取り出し、細かく教え方を伝授
- 中期: 3人ずつのグループでの初級直接法の実践発表
未経験者に発表のストレスを与えないためグループから始める。
ボランティア経験者とゼロの人とのバランスを取りながら、経験者を育て、そのあとに経験者が未経験者を引っ張る努力をした。
- 後期: 個人での発表、直接法でのやり方が、6割の人が身につけ、残り3割の人が方向を見つけ、残り1割の人が直接法、日本語を教える事に理解できていなかった。
最終日、ボランティアに多い個人授業の中級の教え方の模擬授業を見せる。午後より生教材の「東京都からのお知らせ」を読む授業を行う。
初級と中上級の教え方の違いを教え、それぞれにどう教えるかを発表させる。
- 総括: 予想以上に学習者は、向上を見せた。ある程度マスターした者、マスターするための努力を始めた者が殆どであった。

② 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- 外国人生活者を対象としたボランティア日本語クラスの設立
- 外国人生活者のためのサポートデスクの設立
- 地元の外国人生活者との定期交流パーティーやイベントの開催
例) お花見/富士山登山/花火見物/クリスマス会/文化交流パーティー
- ボランティア教師のためのサポートデスク(ネット/携帯電話サイト)の設立

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- アルファ国際学院日本語学科の社会人向け日本語クラス
- アルファ国際学院ボランティア日本語クラス
- アルファ国際学院外国人生活者サポートデスク
- 港区国際交流協会 地域ボランティア日本語クラス
- ボランティア日本語教師のためのサポートデスクにて、本研修修了者を継続的にサポート

② 研修後の人材活用

- アルファ国際学院日本語学科での日本語教育の助手として優秀者を採用し、機会を提供
- アルファ国際学院ボランティア日本語クラスにて、ボランティア教師活動の機会を提供
- 同学院 OB/OG 会(アルファネット)に寄せられた求人情報を元にボランティア日本語教育機関へ情報提供
- 港区国際交流協会における地域ボランティア日本語クラスへの参加

(12) 今後の課題

- 外国人生活者に対する日本語クラスでの実習などを取り入れ、更に具体的に外国人生活者の日本語学習現場への理解を深める必要がある。
- 異文化コミュニケーションや異文化論の講義を組み込み外国人生活者への理解を深める必要がある。
- ボランティア教室の運営に関する基礎知識を求める声も多く、研修に加える必要性を検討する必要がある。

別紙

企画会議議事録

【企画委員の紹介】

□ 梶浦 琢真

アルファ国際学院学院長

本企画委員会代表

□長谷川 純

港区内にて総合法律事務所を開業し、外資系企業や海外進出企業の顧問弁護士として活動し国際問題、東京都内における外国人生活者の諸問題等にも司法の面から取り組んでいる。

□渡辺 伸子

アルファ国際学院日本語教師養成校の港区虎ノ門校の校長とし、日本語教育に長年携わっている。

□佐藤 義朗

フリーランスの編集者として、小学館、主婦の友社、日経 BP 社等の出版社と協力し、留学問題、環境、金融、障害者問題等の書籍を編集、広報誌も多数制作している。

□日名子 暁

作家として、『経・年・国籍不問—外国人労働者が 100 万人になる日:ダイヤモンド社』他多数。外国人生活者の問題について数多く取材。

□大友 正弘

港区国際交流協会の事務局長として、港区在住の外国人生活者のためのボランティア日本語教育をとおし国際交流活動を長年行い実績を上げている。

第一回企画委員会

09 年 1 月 15 日 13:30～15:30

アルファ国際学院虎ノ門本校

- 本講座の趣旨説明
- 本講座内容・担当講師・日程等の確認
- 現在の日本国内における日本語教育事情の説明
- 受講者の本講座修了後の進路・サポート等の確認
- 次回会議日程と議題の確認

■ 各委員からの質疑応答

Q なぜ今本講座の開講が求められているのか。

A 文化庁へ提出した企画書を各位に配布し了承を得る。

A ボランティア日本語教師参加希望者は多いが、一定の技能が求められる。

A と今日都内を中心に関東地区では、プロの日本語教師には、ボランティア日本語クラス等への参加をあまり期待できない。

Q 外国人生活者は地域ボランティア日本語クラスをどのくらい利用しているのか。

A 文化庁へ提出した企画書にて一定の了承を得るものの、今会議に欠席された大友氏に実態を再確認するということでした承を得る。

Q 本講座修了者の進路と活動場所について

A 文化庁へ提出した企画書を各位に配布し了承を得る。

■ 次回の会議日程

日程:09年1月16日18時からアルファ国際学院虎ノ門本校で開催することでした承を得る。

また、大友氏は09年1月21日の会議に出席頂ける事を確認し、地域ボランティア日本語クラスの実態に関して09年1月21日に報告を願うことでした承を得る。

■ 次回の議題確認

- 1 ボランティア日本語教師の位置づけ
- 2 本講座の受講希望者について

第二回企画会議

09年1月16日議題

- 本講座の受講希望者について
- ボランティア日本語教師の位置づけ

■ 各委員からの質疑応答

Q どのような人が本講座の受講を希望しているのか

A 受講申込書に記載されたプロフィールを紹介

A 50歳以上の女性を中心に、男性2女性8の割合である。問い合わせの最高齢者は75歳の男性であった。

A プロの日本語教師を目指す方と同様に、受講への意欲は高く外国人との国際交流に関心を感じられる。

A 定年退職者や中高齢者等の生きがいや社会への再参加という意義も大きいと感じられる。

Q プロの日本語教師はボランティア日本語クラスに参加をしないのか。

A 3割程度の受講希望者は、ボランティアの日本語教師の経験、または日本語教師養成講座の履修者である。ただし、実践指導や日本語について体系的に学習したいという希望が多い。

A 東京都内を中心に関東地区では給料や待遇面に不満を持つ教師が多いのも事実だが、通常プロの日本語教師は、就学生を対象とした日本語学校やビジネスピープルを対照とする日本語学校での教師活動を目指しており、経験豊富な日本語教師や一定水準の日本語教育に関する知識を持ち合わせた教師は、ボランティア日本語クラス等への参加はあまり期待できない。

Q 外国人介護師や看護師のための日本語教育に関して、新聞やテレビで報道されているが本講座は、それらにも対応するのか。

A ご指摘のあった介護師や看護師の日本語教育はプロの教師が対応しており、本講座の主な目的とは異なる。また、本講座の時間数や内容はプロの日本語教師を養成するまでのカリキュラムとなっていないことを受講者にはあらかじめ説明している。

Q 受講者の選定基準はどのように行うか。

A 定員を20名としているので、定員未満の場合は基本的に全員受講可とする。ただし、定員を超えた場合には、受講意欲・動機等を加味し抽選とする。

■ 次回の議題確認

第三回企画会議の開催日時と場所

09年1月21日 アルファ国際学院虎ノ門本校にて実施することを確認。

議題：1 本講座のカリキュラムについて 2 ボランティア日本語クラスの現状

■ 各委員からの質疑応答

Q 本講座のカリキュラム（時間数や講座内容）で本委託事業に対応できるのか。

A 本事業はボランティア教師のための日本語教師養成のコースであるため、実践指導と日本語文法の解説に比重を多くし、ボランティア活動のあり方やボランティア活動への参加の心得もカリキュラムに組み込んでおり、本事業に十分対応できていると考えられる。

第三回企画会議

09年1月21日

議題：1 本講座のカリキュラムについて 2 ボランティア日本語クラスの現状

大友氏に対し、これまでに実施された企画委員会で話し合われたことに関して議事録とあわせて説明をし、了承をえる。

各委員からの質疑応答

Q 大友氏に港区国際交流協会のボランティア日本語クラスの現状をご説明いただいた。

要約

■港区は74の大使館があることもあり、各国の大使館員の家族や港区内の外資系企業などで働く欧米系の会社員の家族の多くが日本語クラスに通っている。有料のクラスだが、授業料は大使館や会社が負担しているケースがほとんどである。また、学習目的は、パーティーなどで日本語で自己紹介ができるようになりたい、買い物ができるようになりたいといった生活するための日本語（サバイバルジャパニーズ）から始まって、祖国では社会人（会社員や弁護士などの専門職など）に就いていた方も多く、配偶者ビザでの労働が認められないことなどから、大使館員の家族の場合、日本で自国の文化を伝えるなどのボランティア活動を目指している方なども多い。

■ボランティア日本語クラスは、有料で実施されている。

授業料：1回2時間の授業を10回行っており、10回のレッスン料は6500円

■ボランティア教師は有料ボランティアで対応している。

10回受け持って、お手当ては、約20000円。

■講師の中には、16年の経験を持つ方や日本語教師の有資格者（420時間養成講座履修者や日本語教育能力検定合格者）もいる。

■現在活動中のボランティア日本語教師からも、より高度な日本語教育に関する指導を求める声も上がっている。

Q 今後、国際交流協会はどのような日本語教育を提供する予定か。

■地域コミュニティとは何かということを考え、例えば災害時などの外国人生活者のためのサポートを誰がするのか。大使館員の家族のケースとして、子どもが日本の学校に通った場合、日本語の習得が両親に比べ一段と早く、また日本の文化にも親しみやすいため両親（父親が大使館員の場合、特に母親）と日本文化の理解度の差からコミュニケーションが取れなくなるケースなどが多い。これらの問題点をカバーするためにも、日本語クラスは地域コミュニティの中心的立場になるようにしたい。東京23区の各国際交流協会は新宿などを中心に積極的に活動している。

Q 外国人生活者にとってコミュニティとは何か。

■通常、外国人生活者は日本人との接点がなく、出身国の年長者を中心としたコミュニティが多く、来日間もない外国人生活者はこのようなコミュニティに参加する傾向にある。港区の場合、日本人の参加者も多いが、他の地域では一切日本人が参加しないことが多く、また情報の信憑性に疑問も残る。

※港区の外国人コミュニティの例：アメリカンクラブやカナディアンクラブ

■生活相談窓口のような機能を持ち合わせ外国人生活者が日本語クラス以外でも、生活や日本文化・慣習に関していつでも困ったときに相談にこられるような場所を目指している。

■港区や千代田区は、地域の特性として外国人生活者の所得が他の地域と比較して高いと思われる。日本語クラスに求める内容も少し違い、コミュニティの性質やその参加者も異質かもしれない。

Q 本カリキュラムにはボランティアのあり方についての説明と外国人生活者に関する講義も入っているが、どのように説明するか。

■港区外からの受講者がいることや将来港区以外の地域でボランティア活動をする方もいることを踏まえて、外国人生活者については幅広く説明する必要がある。

■ボランティアのあり方については、教師に関しては有料ボランティアのケースがあることも伝える必要がある。また、ボランティア教師の活動の趣旨の説明を丁寧に行う必要がある。

Q 本講座のカリキュラム（時間数や講座内容）で本委託事業に対応できるのか。

■次回の企画会議に各委員が、本講座の目標の設定を考えてくることを宿題とすることを確認し、各委員からの了承を得た。

第四回企画会議

09年1月30日

議題：本講座のカリキュラム（時間数や講座内容）で本委託事業に対応できるのか。

■各委員に本講座の目標設定に関して意見を求めたが、いくつかの質問が出た。

1) 本講座の受講者の受講目的は何か。

なぜ、プロ日本語教師を目指さず、ボランティア教師を目指すのか。また、プロとボランティアの教師の違いは何か。

A 本講座の受講申込書に記入をお願いした受講動機欄を見る限りでは、本講座への参加の動機とプロ教師養成講座受講者の受講動機に大差はない。

A 本講座受講者に対し、受講前と受講後にアンケートを実施し本講座の成果を明確にする必要がある。

→次回会議までにアンケートのドラフトを佐藤委員に作成していただき、次回会議で検討することで、各委員の了承を得た。

A プロ教師とボランティア教師は教師活動の場が違う。また、それぞれの日本語教育現場（日本語クラスや学校など）で学ぶ学習者の学習目的が違う。

※例として、プロ教師は大学や大学院の日本語教育の主専攻や副専攻コースや日本語教師養成講座専門校などにおいて、420 時間養成講座など一定の養成講座を受講し、就学生や留学生を対象とした日本語学校で授業を受け持っている。一方、ボランティア教師は自治体などが開講している日本語クラスを受け持っている。

2) プロ教師を養成する学校が、ボランティア教師の養成をするのにあたって、取り組みたいことは何か。

A プロ教師養成の専門家が 60 時間という限られた時間の中で、日本語文法を体系的に解説し、実践的な指導技術の強化を図り、ボランティア教師のレベルアップを目指す。

次回会議を 09 年 2 月 3 日午前 10 時 30 分から行うことを各委員から了承を得る。

今回の議題：ボランティア教師の現状と改善すべき点

第五回企画会議

09 年 2 月 3 日

議題：ボランティア教師の現状と改善すべき点

研修生へのアンケートの検討

■ ボランティア教師のレベルとこれまでの研修方法について質問が出た。

Q ボランティア教師への事前研修はどのように行っているのか。

A 各自治体やボランティア団体が研修の機会を設けていることが多いが、基本的には日本語教師の資格を必要としないケースが大半である。

A ボランティア教師は年功序列または、経験年数を重視する傾向にもある。

Q ボランティア教師のレベルにばらつきはあるのか。

プロ教師と違い、技術や知識を判断する一定の規準となるものがない。

研修生へのアンケートについて

※佐藤委員の作成したアンケートを検証し、本事業の成果を判断するのにふさわしいものとし、全委員了承を得た。※別紙アンケート 1 & 2 参照

別紙アンケート1

Q1、なぜ、プロの日本語教師ではなくボランティア日本語教師を目指すのですか？（複数回答可）

- 1、ボランティアに興味があるから
- 2、プロの資格を取るのが大変そうだから
- 3、就職したことがないから
- 4、毎日働くことができないから
- 5、その他（自由にお書きください）

Q2、日本語を教えることは、難しいと思いますか？

- 1、かなり難しいと思う
- 2、難しいと思う
- 3、まあ、難しいと思う
- 4、まあ、簡単だと思う
- 5、簡単だと思う

Q3、もし、本講座（ボランティア日本語教師無料養成講座）が有料だったら参加したと思いますか？

- 1、はい
- A 5万円以下なら参加した
- B 5万～10万円程度なら参加した
- C 10万円以上でも参加した
- 2、いいえ

Q4、あなたが教えたいと思う外国人の出身地はどこですか？（複数回答可）

- 1、欧米系
- 2、アジア系
- 3、アフリカ系
- 4、中国・韓国系
- 5、その他
- 6、外国人の出身地は問わない

Q5、本講座で一番何を学びたいですか？

- 1、日本語の文型解説について
- 2、日本語の教授法（実践指導）について
- 3、日本語教師のボランティア状況について

Q6、日本文化に関係した資格を取得したり、習い事をしたことはありますか？

- 1、ある
- A、茶道
- B、華道
- C、書道
- D、着物の着付け
- E、俳句・短歌など
- F、その他
- 2、ない

Q7、本講座終了後の目標を自由に書いてください？

別紙アンケート2

Q1、ボランティアの日本語教師として活動したいと思いますか？

- 1、すぐ始めたい 2、もう少し勉強してから始めたい 3、チャンスがあれば始めたい
4、どちらともいえない 5、もう活動している 6、プロ日本語教師を目指したい

Q2、日本語を教えることは、難しいと思いますか？

- 1、かなり難しいと思う 2、難しいと思う 3、まあ、難しいと思う
4、まあ、簡単だと思う 5、簡単だと思う 6、何とも言えない

Q3、もし、本講座(ボランティア日本語教師無料養成講座)が有料だったら受講料はどの程度が妥当だと思いますか？

- A、無料 B、5万円以下 C、5万～10万円程度 D、10万円以上

Q4、あなたが教えたいと思う外国人の出身地はどこですか？(複数回答可)

- 1、欧米系 2、アジア系 3、アフリカ系 4、中国・韓国系 5、その他 6、出身国は問わない

Q5、本講座で一番何を学びましたか？(複数回答可)

- 1、日本語文型 2、日本語の教授法(実践指導) 3、日本語教師のボランティア状況について
4、その()

Q6、ボランティア日本語教師の養成講座として、本講座は十分な時間をかけていたと思いますか？

- 1、十分だった 2、時間数が足りなかった 3、時間数が多すぎた

Q7、ボランティア日本語教師養成講座として、本講座の内容は適していたと思いますか？

- 1、易しすぎた 2、難しすぎた 3、妥当だった 4、どちらともいえない

Q8、日本語教育について今後も勉強したいと思いましたが？

- 1、はい 2、本講座で十分だと思う 3、どちらともいえない

Q9、本講座の内容に点数をつけるとしたら、何点ですか？ ※100点満点でお書きください。

点

Q10、本講座の続きがあったら、また受講したいですか？

- 1、はい 2、いいえ

Q11、ボランティア日本語教師として、当学院に登録したいですか？

- 1、登録したい 2、登録したくない 3、迷っている
4、他の団体などで活動したい 5、他の団体に登録している

Q12、本講座に関する良かった点や悪かった点など、感想を自由にお書きください。